

てんてん新聞

17.6. No 241
発行 市岡 映夫
責任 市岡 映夫
0883-88-5292

春は命が はじける

春は、気温があがると共に様々な命が生きていきまわります。一えんをともらえる。
庭の桃の木の巣箱にヤブガウが入りはじめて毎日、せせと子育を互していた。ある日、家に帰ると、巣立ちをしたものの十分飛べず、草むらにエサを運んでいた。(中の厚直)

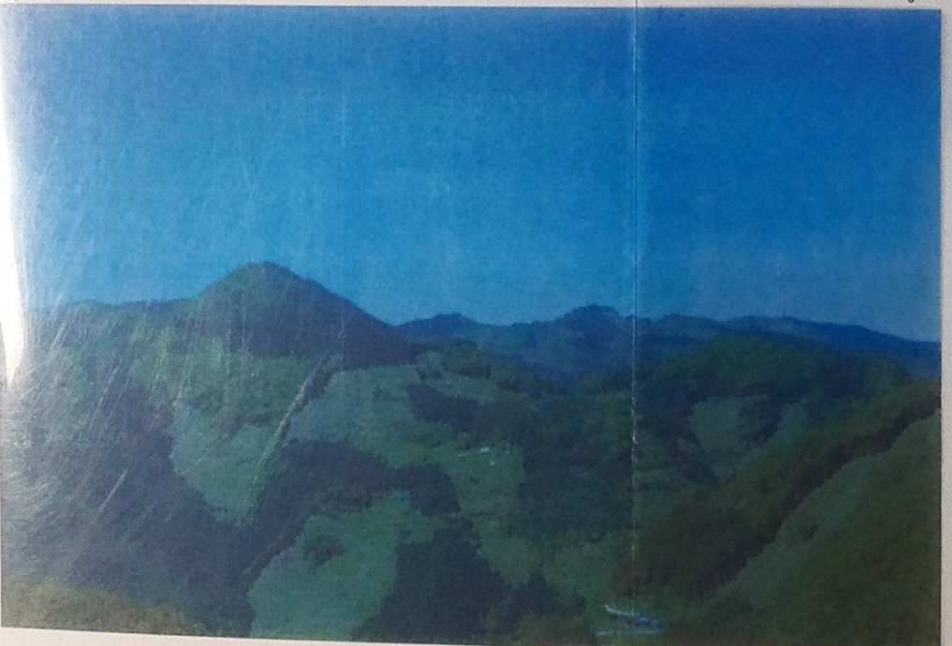


命、大丈夫。無事に大人になるまでとごさう。
コウケイも、数羽のヒナを連れ、林道より口をヨロしているのを河田も目撃。
さて、晴れて、暑いと感じて



いに日中、庭の植木の所で、カマキリの誕生の瞬間にであえました。一ヶ所から数ミリのカマキリが、次々と出てきて、一つの園りにびり、先に出たのが、手足が十分に動ける様になると近くの草木に移動していき(上の厚直)
ほかには、動きがまだニブイ時、アリに出あうと引っぱられる。一匹引っぱられる間に、他のカマキリは、次々と一えんはにびり移動していき。一えんはにびると、アリと出合ふところや平気。アリが近づくと、パット落下して逃げます。ちびみに、指をさすと近づくと、同じパット落下します。同じカマキリだと平気です。

自分の上を歩いても、ちんと逃げずにその場所がOK。
わがが、三千分位で、百んが放立ち、次々と移動し、ちやうど時間がたつと、さかすのに苦みする程でした。
いや、はじめに見ました。厚直が固りはみましたが、次々生まれ、放立つ様子は、ちやうどした感動そのです。
そんな、春の日は、自然界の不思議に出合えるの、いいものです。さうは、何が見られるか、あー。



気がつけば遅すぎず

報道の自由ラニキ、セニ位、これが先進国と言われ、日本の現実。
「ニラニニ」の政治家の皆さんの言動の軽さ。
権力側が危機をあり、謀罪が必要だと言おう。
国連でさえ指摘するといふのに、本当に謀罪といふんですか、百せん、